

### ○三菱商事訪問について

正直なところ、あまり訪問前に調べておかなかったので、実際に訪れて社員の方々からの説明を受けるまで、三菱商事という企業について把握しきれていない部分が有りました。それにより当日のプログラムの内容をよく理解できるかと不安を感じていましたが、紹介、説明が非常に丁寧に取っ付きやすいものであったため、その心配は杞憂に終わりました。

紹介の内容の話ですが、三菱商事の事業の範囲の大きさに驚かされました。名前は知っていても、私のような高校生が普段生活する上で、関わりを持つことはまず無いようなイメージを持っていましたが、多様な商品の取り扱い、様々な企業との連携という形で、我々に近い場所にもその事業が及んでいることを知り、その認識は改められました。宮城県に住んでいる身としては、復興支援活動に関してもそれが言えます。私はちょうど最近、支援の一環を行ったとして当日紹介された場所に行く機会があったこともあり、強くそう感じました。このことに関連し、ディレクトフォースの方が交流の場において、「社名等から存在が見えなくても、影で活躍している」といったことを述べておられました、それがよく分かる紹介でした。

社員、ディレクトフォースの方々との交流においては、日本と外国の間での常識の差について、社員による三菱商事の紹介の際にアルミニウム事業に関しての説明をされていた方を交えて話をしました。留学や海外での事業への参加等、外国での生活体験が豊富な方であった事もあり、その経験も交えて、様々な視点からの意見を紹介して下さいました。また、高校生側からも、成る程と思わされる意見が多数提示され、私にとっては、今後の参考とできそうな深い知恵を得られた、実り多い交流会となりました。

### ○企業大学訪問について

私のグループでは、国立天文台への訪問を行い、巨大望遠鏡 TMT の建設プロジェクトに携わっておられる方に話を伺いました。この企画に関しては、そもそも研究機関の方と連絡を取り、訪問のアポイントメントを取り付けるという事自体が私にとっては初めての経験であったため、まず訪問前に一苦労がありました。それを乗り越え、無事に訪問を終えることができたのは、申請期日ギリギリの連絡にも関わらず、我々の依頼を承諾して下さい、国立天文台様のお陰でありました。訪問先の方々は、当日も非常に親切に対応して下さいました。

実際の活動内容としてですが、一番の目的は冒頭に書いた研究者の方への職業インタビューでありましたから、まずその方へ様々な質問をし、それに答えて頂きました。私達のグループは、細かく分ければそれぞれの目標は違えど、現時点では自然科学系の研究者を志す人間の集まりだったので、現役の研究者である方に話を伺えたことは、大きな意味のある経験となりました。その意味では、その方自身が研究活動をする上での心構えや人間関係等について、また我々高校生が天文学を志す上での今後の進路等についてのお話からは、特に良い参考となる知識を得ることができました。また、天文学についてや TMT のプロジェクトに関しても、興味深い回答を頂くことができました。

それだけでなく、研究施設や各種部品の製作所にも立ち入らせて頂きました。お話を伺った研究者の方が、TMT 望遠鏡の、高度な技術を用いた観測装置のうちの一部の設計等に当たっている方だった事もあり、それが実現しました。建設中の TMT の部品だけでなく、現在稼働中のすばる望遠鏡や南米にある ALMA 望遠鏡、また過去打ち上げられたはやぶさ等の人工衛星の部品を製作した製作所に立ち入り、そのモデル等を直で目にした経験は、様々な分野への興味をかき立てられるものとなりました。

### ○OB,OG との交流について

東大や一橋大、東工大他、日本のトップクラスの大学及び大学院にて勉強や研究を行っている方々、それも仙台二高卒、つまり高校時代を比較的自分と近い環境で過ごした人達の話をお伺いしたことは、私にとって良い刺激と

なりました。文系、理系、学部生、院生問わず話を伺い、将来への視野を広げることができたかと思います。

具体的な内容としては、まず難関大、主に東大に入るための勉強法について仰っていた方が多かったかと思えます。彼らは少なくともその分野においては成功を修めた方々なので、アドバイスにもそれ相応の説得力が感じられました。苦手教科の相談にも乗って下さいました。また、それに関する話を聞いている内に、誤解を招きそうですが、難関大というものとは特別天才と呼ばれる人間ばかりが行く場所でないという認識が強くなりました。勿論最低限必要な素質という物はあるでしょう。そして彼らはそれを備えているだろうとも思えます。しかしそれ以上に、彼らの多くはそれぞれ計画性に基づいた勉強を常人に比べて高い完成度で行ったのだろうと言うこと、端から見れば努力と言えるようなものを行ったのだろうということが◆§◆には感じられました。

また、大学に入ってから生活、研究に関しても、興味深い話を伺うことができました。当日私は国立天文台への訪問を行ったのですが、この交流会でも、東大院の天文学専攻科の方と話をすることができたのは幸運なことでありました。その方からは、大学で行われる天文学の研究の話は勿論、東大での進振りの仕組みや学部から院への過程等についての細かい情報も得ることができました。他の方との交流においても、各々の専門の研究についてや、受験に対する心構えのようなものもご教授頂くことができ、非常に面白みのある会となりました。

### ○東大 OC について

高校 1 学年の段階で東大を訪れ、その雰囲気を感じることができたのは、今後の進路選びに際しても一つの参考となるであろう、良い経験となりました。オープンキャンパス自体も、興味深い展示や講演等の企画で溢れており、一日飽きずに過ごすことができました。

一つ残念であったことといえば、事前に申し込んでいたつものの、工学部の定員制企画が私達が行った前日のものであったことくらいですが、その代わりに 2 日目には理学部の企画が充実しており、理系志望の私にとっては満足できる一日となりました。理学部の企画としては、講演が充実していました。勿論時間は限られていたため、あまり多くを訪れることは出来ませんでした。私の参加したプログラムは、その分野への更なる興味をそそられる、非常に豊富な知識を得られるものばかりでありました。中でも情報科学科の教授によるコンピューターの学習をテーマとした講演、数学科の教授による多次元における球をテーマとした講演は、私には特に興味深く感じられました。

また、東大では、各学部による企画だけでなく、大学そのものの環境、設備等も楽しんで来ました。そもそも学内に入った時点で、門をくぐる前の都会の喧騒から一転して、まさに昔ながらの大学といった西洋風の建造物が立ち並ぶ、静かで緊張感のある雰囲気へと変化する周囲の様子に感動すら覚えました。中に入っても、三四郎池を初めとして自然の要素もあり、安田講堂を代表して象徴的な建物もあり、また生協や食堂等の施設もそこそこ充実しておりと、とても過ごしやすい空間でありました。将来訪れるであろう大学生活というものの一端を垣間見、自分自身の進路の可能性も広がる、良い一日を過ごすことができました。